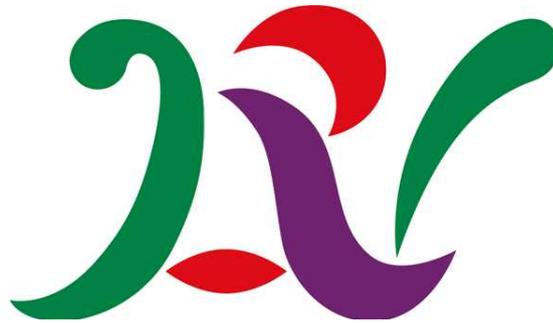


令和5年度 業務実績報告書



令和6年 6月

公立大学法人 奈良県立大学

I 教育	価値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上や、地域への理解を深め、地域で学び実践することへの意識と行動力をもつ人材の育成 ・語学教育の充実による海外留学の推進、実践型英語教育の実施など国際社会でも通用する人材の育成 ・専門科目に繋げる教養教育の体系化と提供科目の充実 ・入学定員増に向けた教育体制の充実 ・大学院など新たな教育組織の設置に向けた検討
1 教育内容の充実		

① 学習コモンズ制による少人数対話型教育を通してコミュニケーション能力の向上を図る										
取組内容（令和3～8年度）										
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数対話型教育により、主体性やコミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な力を習得させる ・自治体や企業などと連携したPBL（課題解決型学習）の実施により、実践的な課題解決能力を鍛える 										
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
ゼミ活動の充実により、主体性や協働する力の涵養	目標			(定性的目標) ゼミ活動の更なる充実を図る						
	実績	実施			実施	実施				
					(具体的内容) ・各学年の必修のゼミ（基礎ゼミ、コモンズゼミⅠ～Ⅲ）を通じて、主体性とコミュニケーション能力育成を重視した学びを実施した。					
AL（アクティブ・ラーニング）やPBLの実施〔件数〕	目標						350件		400件	
	実績	200件	427件	350件	404件	524件				

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・主体性とコミュニケーション能力を育成するため、ゼミにおいて各学年ごとに段階的に継続的な学びを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の必修のゼミ（基礎ゼミ、コモンズゼミⅠ～Ⅲ）を通じて、主体性とコミュニケーション能力育成を重視した学びを実施した。 各学年のゼミの内容 <ul style="list-style-type: none"> 1年次の「基礎ゼミ」では、ゼミ・講義等での学びの内容を整理して学生が自らの問題関心を探り、今後取り組みたい研究テーマや、学びを深めたい学問領域についての計画を「学びの設計書」としてまとめて提出させた。 2年次の「コモンズゼミⅠ」では、「学びの設計書」でまとめた各自の研究内容を、ゼミの教員・学生との議論やフィールドワークを通じてブラッシュアップし、その成果を「研究報告書」としてまとめ、提出させた。以上のプロセスを通じて、自身の関心を軸として主体的に研究の基礎スキルを学ぶとともに議論する力や実践力、プレゼンテーション力の涵養を図った。 3・4年次の「コモンズゼミⅡ・Ⅲ」では、2年次までに培ってきた問題意識や学びをもとに、さらに議論とフィールドワーク、講義科目での専門的学びにより研究テーマ・計画をブラッシュアップし、卒業論文としてまとめて提出させた。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な課題解決能力を身につけるため、自治体等と連携したPBLをゼミ活動やフィールドワーク科目で実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ活動・フィールドワーク科目において、自治体・企業等と連携したPBLやALを524件実施した。 特徴的なゼミ、フィールドワーク実践例 <ul style="list-style-type: none"> 山の辺の道における持続可能な観光振興に関する調査 奈良県御杖村の道の駅活性化プロジェクト きたまちインターカレッジコンペティションへの参加（きたまち地区の活性化検討） 「高山竹あかり」イベントの企画立案と実施 奈良県御杖村の直売所の活性化プロジェクト ・中期計画目標値である400件を大幅に上回った。 	S
<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度からの新カリキュラムに対応する講義科目やゼミの開講準備を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域・観光系」「教養系」の2つの学位プログラムを想定したワーキンググループを設置して、リベラルアーツ科目、専門科目、ゼミ、及びフィールドワーク科目、キャリア系科目、奈良を学ぶ科目等を含めたカリキュラム再編の検討を実施した。 	A

② グローバル人材の育成に向けた語学教育の充実を図る									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな外国語の語学教育プログラムを実施する ・カリキュラム改革の進展に合わせて、ネイティブ教員が担当する英語の授業の充実を図る 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
語学教育プログラムの開発と実践	目標			(定性的目標) 新たな語学教育プログラムの導入及び実施					
	実績	検討		実施	実施	実施			
				↓ (具体的内容) ・令和4年度に4科目(英語多読、英語コミュニケーションを各2科目)を新設し、強化した実践的な内容を多彩に学べる英語授業科目「選択英語」のプログラムを継続実施した。					
英語教育の強化	目標			(定性的目標) 英語必修化や習熟度別クラスの導入等により英語教育を充実して実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓ (具体的内容) ・1・2年次英必修英語4科目、習熟度別8クラス編成、選択英語18科目により構成される英語教育カリキュラムを継続実施した。 ・科目数 22科目(必修英語4、選択英語18) うちネイティブ教員担当 (必修英語4、選択英語2) ・クラス数 50クラス(必修英語32、選択英語18) うちネイティブ教員担当 20クラス(必修英語16、選択英語4)					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度までに整備してきた語学カリキュラムを継続実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に整備が完成した1・2年次英語必修化、習熟度別8クラス編成、選択英語(9科目×前期・後期=18科目)のカリキュラムを継続実施した。 ・科目数 22科目(必修英語4、選択英語18) うちネイティブ教員担当 (必修英語4、選択英語2) ・クラス数 50クラス(必修英語32、選択英語18) うちネイティブ教員担当 20クラス(必修英語16、選択英語4) 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度からの新カリキュラムに合わせて、今後の語学教育のカリキュラム改善に向けての検討を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの検討とあわせて、語学教育の充実に関する検討を行った。多様なニーズに即した全学共通基盤としての語学カリキュラムの充実に向けて、全学年で履修可能な選択英語に、さらに実践と教養の両面から必要と判断される科目を新設する方向で検討を行った。 ・上記の語学カリキュラムの検討・整備ならびに実践を担う専任教員として、令和6年度着任の語学担当教員(増員)の採用人事を行った。 	A
(年度計画外の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日の昼休みにEカフェを実施し、実践的に英語を使用する機会を提供した。 ・TOEFL ITP団体試験を学内で実施した。 6月29日(木) 受験者：10名 12月20日(水) 受験者：11名 (上記団体試験について、1年生の受験料を約半額助成した。) ・第3回英語プレゼンテーション大会を実施した。 12月14日(木) 出場者：7名 テーマ：「奈良県立大学ノベルティグッズ企画」 	

③ 教養教育の一層の充実を図る									
取組内容（令和3～8年度）									
・教養科目の構成を見直し、教養教育の体系化を図る									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
教養教育の体系化とそれに基づくリベラルアーツ科目の配置	目標	-		(定性的目標) 体系化を実施 リベラルアーツ科目の更なる充実					
	実績			検討	検討	検討			
	(具体的内容) ・「地域・観光系」「教養系」の2つの学位プログラムを想定したワーキンググループを設置して、教養科目の充実とリベラルアーツ科目再編に関して検討を実施した。								
令和5年度計画		令和5年度計画の実績							自己評価
・令和7年度からの新カリキュラムに対応する講義科目やゼミの開講準備を進める		・「地域・観光系」「教養系」の2つの学位プログラムを想定したワーキンググループを設置して、リベラルアーツ科目、専門科目、ゼミ、及びフィールドワーク科目、キャリア系科目、奈良を学ぶ科目等を含めたカリキュラム再編の検討を実施した。							A

④ 入学定員増に向けた教育体制の充実を図る													
取組内容（令和3～8年度）													
<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度に入学定員を50名増員する 必要な教職員の確保及び施設の整備を進める 													
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8				
入学定員増に向けた教育体制の充実	目標	-			(定性的目標) 検討、実施								
	実績				検討								
	(具体的内容)												
<ul style="list-style-type: none"> 入学定員増にかかる手続を確認し、申請書類案を作成した。 必要となる分野の教員2名の募集を行った。 													

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 入学定員増にかかる学則変更の届出申請書類を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> 入学定員増にかかる手続を確認し、申請書類案を作成した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 必要な教員を確保するための準備を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 必要となる分野の教員2名の募集を行った。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 県と教育研究棟(仮称)の仕様について検討・協議を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の仕様について県と協議を行った。 	A

⑤ 新たな教育研究組織の設置に向けた準備を行う									
取組内容（令和3～8年度）									
・大学院設置の準備を進める									
実現目標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
大学院設置に向けた検討	目標			（定性的目標） 大学院設置の準備を進める					
	実績	検討		検討	検討	検討			
				↓ （具体的内容） ・学部の新カリキュラムと接続する形で大学院を設計する必要があるため、継続審議とした。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・令和4年度までの検討結果に基づき、大学院設置に向けた準備を更に進める	・学部の新カリキュラムと接続する形で大学院を設計する必要があるため、継続審議とした。	B

I 教育	価値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と学生が協働で授業の質向上を目指す仕組みを構築するとともに、教員の多面的評価の実施など評価手法の高度化の推進 ・大学の内部質保証のための教学マネジメントの推進
2 教育の質保証		

⑥ F D 研修などを通して教員の教育能力向上を図る										
取組内容（令和3～8年度）										
・組織的なFD活動を推進し、教員の教育力の向上と授業内容・方法の改善を図る										
実現目標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	
F D 研修の充実	目標			(定性的目標)					教員の教育能力の向上を図る取組を実施	
	実績	実施		実施	実施	実施				
				(具体的内容) ・教育の質向上を目的としたF D 研修会を2回実施した。						

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教学I Rの取組と連携し、本学の特色をいかしたFD活動を組織的に実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・F D・S D研修を2回実施した。 9月27日(水) オンライン実施 参加者：36名(教員23名、職員13名) 内容：「教学におけるMicrosoft Teamsの使いかた」 3月18日(月) 対面実施 参加者：42名(教員16名、職員26名) 内容：「これからの大学運営について」 ・本学の特色を生かした組織的なFDの実践として「学びの設計&ポートフォリオ」「卒業論文ループリック」の運用を開始した。 ・教員が授業に関する自己チェックシート(教育の実践例、工夫点、課題等)を実施した。 	A

⑦ 教員組織を充実し教育機能の強化を図る									
取組内容（令和3～8年度）									
・多様な任用形態を進めることで優秀な教員を確保し、社会の変化に対応した教育研究体制を推進する									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
教員の任用制度の 多様化とその活用	目標			(定性的目標) 検証、見直し等を実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓					
				(具体的内容) ・理事長から新しい教員人事制度の創設について提案があり、理事会等で審議を行った。					
教員の多面的評価 の実施	目標	-		(定性的目標) 検討、実施					
	実績	-		検討	検討	検討			
				↓					
				(具体的内容) ・「教員の多面的評価制度」について、過去3年間の評価（教育、研究、社会活動、大学運営）に資するデータを収集し、学内理事会で検討を行った。（令和6年3月12日 学内理事会を実施）					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・教育、研究、社会活動及び大学運営について、データを用いて多面的な評価を進める	・「教員の多面的評価制度」について、過去3年間の評価（教育、研究、社会活動、大学運営）に資するデータを収集し、学内理事会で検討を行った。（令和6年3月12日 学内理事会を実施）	A

⑧ 学修成果の可視化を行うなど、教学マネジメントの推進を図る										
取組内容（令和3～8年度）										
<ul style="list-style-type: none"> ・成績を中心とした教育情報を分析し教学マネジメントに活用するため教学IR機能の充実を図る ・各種の学習記録及び成績評価により教育成果と学修成果の可視化を図る 										
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
教学IR機能の充実	目標	-		(定性的目標) 検討、実施						
	実績			検討	実施	実施				
	(具体的内容) ・入試成績、学業成績に関するデータ分析を実施した。									
学修成果を可視化する手法の検討と実施	目標			(定性的目標) 随時見直しを行い、充実して実施						
	実績	実施		検討	実施	実施				
	(具体的内容) ・全学年が学期末さらに学年末に自身の学習成果を可視化し把握するツールとして「学びの設計&ポートフォリオ」「卒業論文ループリック」の運用を開始した。									

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教学IRに関するデータ分析等の取組を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・教学IRチームにおいて、入試成績、学業成績に関するデータ分析を実施した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの設計&ポートフォリオ」等、教育成果と学修成果の可視化を図るためのツールを整備し、学生に活用を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの設計&ポートフォリオ」の運用を開始し、全学年を対象に、各学期末に学習成果を可視化し把握する「学びのアンケート」を実施した。さらに、1～3年の各学年末に、ゼミ教員の指導のもと、これまでの学習成果を振り返りこれからの学習方針を検討する「学びの設計書（1年次：従来の内容を再整備）」「学びの現在地（2，3年次：新設）」を全学年が作成した。 ・卒業論文の達成状況を可視化し把握する「卒業論文ループリック」を導入し運用開始した。 	A

I 教育	価値目標	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルスカウンセリングやキャリア教育の体系化など学生生活に対するサポート体制の充実 学生のニーズを把握し、学内ICT環境整備や附属図書館の機能拡充など修学環境の改善
3 学習環境及び教育環境の充実		

⑨ 学生生活に対するサポート体制を充実する									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> 履修相談、成績問合せ、ゼミ教員による相談、学習管理システムのポートフォリオ機能を活用することなどにより、相談体制の充実を図る メンタルヘルスカウンセリングを充実し、学生が相談しやすい環境づくりを行う 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
学習、成績に関する相談体制の充実	目標			(定性的目標) 充実して実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
<p>(具体的内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修登録期間中に教務委員会による履修相談会を実施した。 成績に関する問い合わせを学習管理システム（manaba）で受け付け、教務委員会および担当教員で対応した。 ゼミ教員が、ポートフォリオ等（履修登録状況等やmanabaに蓄積された学生の学びの履歴・提出物等）を参照し、履修、学修、進路等に関わる学生からの相談に対応した。 教務・学生課、教務委員会が、学生の履修状況や単位修得状況、学習管理システム（manaba）へのアクセス状況等を参照し、フォローが必要な学生に対しては、担当のゼミ教員と連携して学生の事情を共有し対応した。 									
メンタルヘルスやハラスメントなどの相談体制の充実	目標			(定性的目標) 充実して実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
<p>(具体的内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの実施状況について、カウンセラーと情報共有するなど連携を取りながら実施した。 									

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 履修に関する学生の疑問に応えるため、前期及び後期の履修登録期間中に教務委員会による履修相談会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> 前期履修登録期間中に教務委員会による1年間を対象とした履修相談会を実施した。 4月6日(木)、7日(金) 参加者：延べ124名 後期履修登録期間の履修相談は、教務・学生課を窓口として対応した。 軽微な内容を除き、具体的な相談は0名であった。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 学習に関する学生の悩みに応えるため、学生の要望に応じて、ポートフォリオ等を参照し、ゼミ教員が相談を受け付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 成績に関する問い合わせを学習管理システム（manaba）で受け付け、教務委員会および担当教員で対応した。 ゼミ教員が、ポートフォリオ等（履修登録状況等やmanabaに蓄積された学生の学びの履歴・提出物等）を参照し、履修、学修、進路等に関わる学生からの相談に対応した。 教務・学生課、教務委員会が、学生の履修状況や単位修得状況、学習管理システム（manaba）へのアクセス状況等を参照し、フォローが必要な学生に対しては、担当のゼミ教員と連携して学生の事情を共有し対応した。 	A
(年度計画外の取組)	<ul style="list-style-type: none"> メンタルカウンセリングについて、学内WEB、学習管理システム(manaba)及びデジタルサイネージで周知し実施した。 前期：14件（学生11件・教職員3件） 後期：10件（学生10件） 	

⑩ 学生の進路選択をサポートする体制を充実する										
取組内容（令和3～8年度）										
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの充実により、多様な就業体験の機会を提供するなど就職支援の強化を図る ・キャリア教育を充実し体系化することにより、特色あるカリキュラムを構成する 										
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
就職希望者の就職率	目標	全国国公立大学の平均値以上								
	実績	98.2%	95.9%	96.1%	97.4%	98.5%				
インターンシップ等の就業体験の充実	目標			(定性的目標)			充実して実施			
	実績	実施		実施	実施	実施				
				(具体的内容) ・奈良県立大学インターンシップを実施し、13の企業団体へ合計30名の学生が参加した。 (民間企業：6名 自治体：18名 団体：5名 神社：1名) ・大学経由で応募するインターンシップを実施し、県外の自治体に対して4名が参加した。 ・奈良県インターンシップ推進事業主催のサマーインターンシップにおいて、県内・県外の企業及び団体へ11名が参加した。(34大学参加、本学の学生の参加率は全体の11.7%)						
キャリア教育の体系化	目標			(定性的目標)			実施			
	実績	-		検討	検討	検討				
				(具体的内容) ・カリキュラム検討会議において検討を行った。						

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・企業及び自治体でのインターンシップを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学インターンシップを実施し、13の企業団体へ合計30名の学生が参加した。 (民間企業：6名 自治体：18名 団体：5名 神社：1名) ・大学経由で応募する一般公募型インターンシップに、県外の自治体に対して5名が参加した。 ・奈良県インターンシップ推進事業主催のサマーインターンシップにおいて、県内・県外の企業及び団体へ11名が参加した。(34大学参加、本学の学生の参加率は全体の11.7%) 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・業界研究会や企業説明会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年生対象就職対策講座」を開催した。 前期 実施回数：11回 講座内容：「自己分析」「業界研究」等 後期 実施回数：10回 講座内容：「応募書類作成のポイント」等 ・「保護者対象就職説明会」を実施した。 11月5日(日) 参加者：49名 ・「2年生対象インターンシップ準備セミナー(新規取組)」を実施した。 1月18日(木) 参加者：8名 1月25日(木) 参加者：10名 ・「第5回学内業界・業種研究会」を実施した。 11月24日(金) 参加者：62名 参加企業：12社 ・「ファッション業界職種研究会(新規取組)」を実施した。 11月16日(木) 参加者：4名 ・杉本商事「専門商社のごと理解セミナー(新規取組)」を実施した。 1月23日(火) 参加者：1名 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度からの新カリキュラムに合わせて、キャリア教育の体系化の議論を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育のあり方について、カリキュラム検討会議で議論を行い、新カリキュラムの検討に合わせて、今後も継続してカリキュラム検討会議で審議されることになった。 ・「体系化」の内容にとどまらず、本学のキャリア教育のあり方全体について、大学全体のカリキュラム編成のなかで議論を行っている。 	A

⑪ キャンパス整備を推進する									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・県と連携して、新たな大学整備計画に基づくキャンパス整備を推進する ・学内ICT環境や図書館機能の充実により、学生が学びやすい環境の整備を推進する 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
新たな大学整備計画に基づく施設整備の推進	目標			(定性的目標) 県と協力し、実施					
	実績	-		計画の見直し	実施	実施			
				(具体的内容) ・令和5年5月末にクラブハウス棟が竣工した。 ・令和6年1月にIV号館除却に向けた不用品処分を完了した。 ・令和6年1月にIV号館除却工事請負業者が決定し、除却工事に着工した。					
多様な学生のニーズに応える修学環境の改善	目標			(定性的目標) 順次実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				(具体的内容) ・令和5年10月にI号館食堂をリニューアルオープンし、食事時間以外にも学生が交流できる場所となった。 ・モバイル端末利用環境の整備を行った。(I号館食堂にUSB給電コンセントを設置)					
学内ICT環境の整備	目標			(定性的目標) 設備及び職員体制を充実					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				(具体的内容) ・モバイル端末利用環境の整備を行った。(I号館食堂にUSB給電コンセントを設置) ・インターネットサーバの更新調達を行った。					
学習支援機能等を拡充した附属図書館の整備	目標			(定性的目標) 内容を検討し、実施					
	実績	-		検討	検討	検討			
				(具体的内容) ・現図書館の整備について、施設整備基本計画に沿って設計業務が実施されるよう、県との協議へ向けた検討を行い、その中でセキュリティゲートについても検討を進めることとした。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・県の計画に沿ってクラブハウスを新築整備する	・令和5年5月末にクラブハウス棟が竣工した。	A
・県と教育研究棟(仮称)の仕様について検討・協議を実施する	・施設・設備の仕様について県と協議を行った。	A
・1号館食堂リニューアル工事を行う	・令和5年9月末にリニューアル工事を行った。	A
・セキュリティゲートシステムの導入に向けた検討を行う	・現図書館の整備について、施設整備基本計画に沿って設計業務が実施されるよう、県との協議へ向けた検討を行い、その中でセキュリティゲートについても検討を進めることとした。	A

I 教育	価値目標	・ 附属高校において県立大学の建学の精神を踏まえ、課題探究型の学びを通じて自ら課題を発見し、解決する姿勢を身につけた人材の育成
		・ 生徒が直接大学教員の講義を受講するなど、大学や社会との接続を意識した、高度な高大接続教育の実践
4 附属高校の教育の充実と高大接続の推進		

⑫ ICT等を活用した主体的な学びや高度な高大連携教育を実施する									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属高等学校を令和4年度に開校する ・ ICTの活用や反転学習の実施により、主体的に学び続ける力を育む教育を実践する ・ 大学教員と連携した課題探究型の授業の実施や、大学の授業の受講など、高大連携教育を実施する 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
ICTの活用や、反転学習を前提としたALの充実などによる主体的な学びの推進	目標			(定性的目標)					実施
	実績	検討		実施	実施	実施			
				↓ (具体的内容) ・ 校内ネットワーク環境や電子黒板機能のあるプロジェクター等を活用し、全ての授業等においてICT活用教育を積極的に推進した。 ・ 全ての生徒が所持する情報端末を最大限活用し、家庭での反転学習を積極的に行い、学校でのAL型授業を効果的に進めた。					
目標			(定性的目標)					実施	
課題探究型の学びを支える高校・大学教員連携体制の推進	実績	検討		検討	検討	実施			
				↓ (具体的内容) ・ 課題探究型の学びを推進するため「高大連携推進会議」を設置し、同会議に付置される「高大連携部会」及び「県大特別推薦候補生選考部会」において、「課題探究」及び「APプログラム」等における具体的な連携体制や「入学者選抜の在り方」等について協議を行った。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年に応じた生徒の実態を踏まえ、一人一人の進路実現に向けた学習プログラムを企画し実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路希望調査を行った。 第1学年：5月17日(水)、12月8日(金) 第2学年：6月30日(金)、12月8日(金) ・ 大学進学に向けた実力養成講座及び強化学習会を実施した。 平日(0・8・9限)：前期10講座、後期20講座 休業中等：夏季18講座、冬季15講座、春季23講座 年末強化学習会(12月26日～28日)、新春強化学習会(1月6日～8日)、 春季強化学習会(3月25日～29日) ・ 個別学習用のブース型デスクを校内2カ所に64台設置し運用した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「高大連携推進会議」等を通して、「課題探究」、「APプログラム」、「特別推薦制度」等の内容を具体化し実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「高大連携推進会議」において、高大連携の取組に関する事項や「特別推薦制度」に関する事項について協議を行った。 高大連携推進会議：5月17日(水)、9月29日(金)、11月6日(月) 高大連携部会及び県大特別推薦候補生選考部会の合同部会：4月19日(水)、7月4日(火)、8月29日(火)、10月17日(火)、11月16日(木) ・ 奈良県立大学高大接続科目等履修プログラム(APプログラム)内規を策定した。(令和5年12月12日施行) 	A

Ⅱ 研究	価値目標	・論文執筆・学会発表を促進し、第1期中期目標期間において取組を進めた「奈良県立大学リポジトリ（研究や学習の成果を学内外に公開するためのデータベースシステム）」を通じた研究成果の積極的な公表 ・外部機関等との共同研究の実施、学生の研究への参画の推進や教員評価の充実を通じて、研究水準の向上を図る
1 研究力の向上		

⑬ 研究水準の向上を図るとともに、研究成果を積極的に公表する									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決につながる研究を推進する ・「奈良県立大学リポジトリ」の活用等により、研究成果の蓄積と発信を進める ・共同研究や受託研究を推進し、研究力の向上を図る ・ユーラシア研究センターにおいて、奈良とユーラシアとのつながりについての調査研究を行い、その成果について広く発信する 									
実現目標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
研究成果の論文公表 〔公表数〕	目標						30編		30編
	実績	30編	33編	39編	46編	45編			
研究成果の国内における学会発表数 〔発表数〕	目標						30件		30件
	実績	30件	14件	24件	30件	66件			
研究成果の海外における学会発表数 〔発表数〕	目標						3件		3件
	実績	3件	0件	2件	1件	2件			
共同研究、受託研究等の実施 〔件数〕	目標						10件		10件
	実績	10件	18件	17件	24件	35件			
教員の多面的評価の実施（再掲）	目標				(定性的目標) 検討、実施				
					検討	検討	検討		
	実績	-			(具体的内容) ・「教員の多面的評価制度」について、評価に資するデータを収集し、学内理事会で検討を行った。（令和6年3月12日学内理事会を実施）				

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良県の発展に資する研究」など地域の課題解決につながる研究を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良県の発展に資する研究（5件）」（2年計画の2年目）の研究を推進し、成果を踏まえた研究会、委員会、フォーラム等を15件開催した。 <ol style="list-style-type: none"> ①「グローバル化時代における新たな食文化の創造：地域における食の物語の発掘と観光資源化」代表：窪田准教授 ②「奈良に宿る「文化の記録」と「記憶の継承」」代表：山田特任教授 ③「デジタルヘルスを活用した奈良県の魅力深耕」代表：鈴木教授 ④「地域映像収集による地域資源再評価プロジェクト」代表：水谷教授 ⑤「農山村を衰退させる構造力学の解明とその転換可能性に関する実践研究－「学ぶことを学ぶ場」の創設を通じて」代表：堀田教授 ・上記に係る令和5年度分研究費として、16,410千円を配分した。 ・上記に関する最終報告会を開催した。 3月21日(木) 参加者：20名 報告5件 	A

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<p>・共同研究、受託研究及び学術研究制度により、研究力の向上を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との共同研究を1件実施した。 「BCGを用いた血圧など健康指標推定法の開発」 共同研究社：株式会社TAOS研究所、協力企業A社 担当：鈴木教授 ・市町村等からの受託研究を6件実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ①「地域交流型連携事業運営委託業務」 委託者：御杖村（平成25年度～） 担当：村瀬准教授 ②「自転車の歴史についての調査・分析」 委託者：公益財団法人シマノ・サイクル開発センター 担当：山部准教授 ③「特別展「法然と極楽浄土」出陳作品に係る展示台制作業務委託」 委託者：株式会社NHKプロモーション 担当：山田特任教授 ④「令和5年度 宇陀松山景観調査業務」 委託者：宇陀市 担当：井原教授 ⑤「令和5年度 テクノロジーを活用したコンテンツ制作等業務委託（仏像）」 委託者：奈良県伝統文化親子体験キャラバン実行委員会 担当：山田特任教授 ⑥「令和6年度特集展示「修理完成記念 當麻寺の仁王さん」展示コンテンツ制作等業務委託」 委託者：なら歴史芸術文化村 担当：山田特任教授 ・学術研究員を学外から受け入れ、共同研究を8件実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ①保育・教育の高度専門職化とサービス多元化に関する日仏比較研究－「子どもの権利」と「共に育てること」をめぐる議論の展開に着目して ②撤退可能性の文明的的研究 ③フーディー時代における食文化の研究 ④デジタルヘルスにおける付加価値の探求 ⑤国立西洋美術館の所蔵作品における3Dデータを用いた活用方法 ⑥地域における食の物語の発掘と観光資源化-ガストロノミーリズムを事例として ⑦奈良県における破損仏の3Dを用いた学術調査と復元案の検証 ⑧公務員の不正行為に対する組織が施す防止措置の効果に関する理論的・実証的研究 ・その他、科学研究費補助金・助成金等に採択された研究を20件実施した。 ・上記の通り35件の共同研究、受託研究等を実施し、中期計画目標値の10件を大幅に上回った。 	<p style="text-align: center;">S</p>
<p>・地域創造研究センターと附属図書館が連携し、奈良県立大学リポジトリのコンテンツの充実を図るなど、研究成果の蓄積と発信を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『研究季報』を発行した。 34巻第1号（学術論文2編、史料紹介1編、執筆者4名（うち学外者1名）） 34巻第2号（学術論文1編、シンポジウム報告1編、史料紹介1編、 執筆者9名（うち学外者6名）） 34巻第3号（学術論文2編、研究ノート1編、執筆者6名（うち学外者3名）） ・『研究報告』を発行した。 第15号（懸賞論文優秀作4編、学生グループ共同研究報告5件 等） 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>・ユーラシア研究センターにおいて調査研究活動のための研究会を開催する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究活動のための研究会を開催した。 近世奈良を語る会：3回 大和のリーダー研究会：7回 近世近代の思想研究会：9回 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>・ユーラシア研究センターの調査研究活動成果についての一般書籍または調査研究レポートを発行する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月末に『奈良県立大学ユーラシア研究センター学術叢書3』（4編/各1,200部）を出版した。 Vol.1 近世の奈良を見つめ直す。Ⅲ「ふる里の言葉」rerecord Vol.2 大和の国のリーダーたちⅢ Vol.3 奈良に時かれた言葉Ⅲ 近世・近代の思想 Vol.4 奈良でゾロアスター教 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>・ユーラシア研究センターの調査研究成果発表のためのフォーラム等を開催する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア研究フォーラム2023「奈良でゾロアスター教」を開催した。 日 時：令和5年11月25日（土） 会 場：奈良県立大学3号館2階 多目的ホール 参加者：会場65名、リモート41名以上 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>・ユーラシア研究センターの調査研究成果報告のための情報誌『EURO-NARASIA Q』を発行する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌『EURO-NARASIA Q』を発行（第25号、7,000部）した。 第25号 これこれ、ケンカはやめなさい。（カミさまより） ※関係機関等に謹呈のほか、一般の方々に無償提供 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>・ユーラシア研究センターで取り組む研究題材を活用した、本学での講義を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア研究センターで取り組む研究題材を活用した講義を実施した。 前期：「奈良文化コンテンツ論」 受講者103名 後期：「奈良文化イメージ論」 受講者96名 	<p style="text-align: center;">A</p>

Ⅱ 研究	価値目標	・研究活動を効果的・効率的に進めていくために、プロジェクトの企画・運営、知的財産の管理・運用等の研究支援業務を行う研究マネジメント人材であるURA（リサーチ・アドミニストレーター）による支援等による競争的研究資金の獲得など、研究活動活性化のための研究支援組織の充実
2 研究推進体制の充実		

⑭ 競争的研究資金の獲得等の研究支援組織の充実を図る									
取組内容（令和3～8年度）									
・科学研究費補助金等の外部資金獲得を推進するため、URAを配置し情報収集及び申請支援の機能を充実する									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
科学研究費補助金の申請促進〔申請者率〕	目標						70%		90%
	実績	34.4%	37.5%	50.0%	51.5%	64.7%			
URAの活用等による研究支援体制の充実	目標			（定性的目標） URAを配置し、研究支援体制を充実					
	実績	地域創造研究センター設置		実施	実施	実施			
				↓ （具体的内容） ・科研費獲得ウェビナー研修会を実施した。 ・研究倫理研修（e-learning研修）を実施した。 ・外部資金等の情報を提供し、科研申請率を引き上げた。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・科学研究費補助金等の外部資金獲得を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費や民間財団等の外部資金獲得に係る情報を都度提供した。 ・研究倫理研修（e-learning研修）を実施した。（52名が受講、受講率100%） ・科研費研究実施件数（令和5年度からの採択分及び継続分を含む） 代表17件（基盤B1件、基盤C11件、若手4件、研究スタート支援1件（※）） 分担12件（基盤A2件、基盤B2件、基盤C8件） ・科研費新規申請件数（代表） 12件（基盤B1件、基盤C7件、若手1件、挑戦的研究1件、 研究スタート支援1件、出版助成1件） うち採択3件（基盤C2件、研究スタート支援1件） ※研究スタート支援は令和5年度に申請し、同年度内に採択） 挑戦的研究1件は未通知。 	A
・科研費申請支援講習会を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費獲得ウェビナー研修会の受講を支援した。 受講者数：10名 	A
（年度計画外の取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の学術研究を推進するため、科研費申請を目指す学外研究者を受け入れる客員研究員制度を整備した。（令和6年度から受入開始） 	

Ⅲ 地域連携	価値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員・学生と産学公民各団体とが連携して取り組む調査研究・社会活動事業の促進 ・ 県民講座、研究フォーラム、地域活動報告会などを通じた社会的課題の共有と知的交流の推進 ・ 模擬講義、高大連携のワークショップやフィールドワーク等を通じた高等学校との連携強化
1 地域のステークホルダーとの関係構築		

⑮ 産学公民連携を促進する									
取組内容（令和3～8年度）									
・ 地域の産学公民各団体と連携し、調査研究・社会活動事業を実施する									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
産学公民各団体との連携事業の推進 〔件数〕	目標						35件		40件
	実績	36件	36件	39件	40件	40件			

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・ 地域の産学公民各団体と連携し、調査研究及び社会活動事業を実施する	・ 令和4年度に締結した「奈良県内国公立高等教育・研究機関における連携・協力に関する協定書」に基づき奈良国立大学機構が中心となって設立された「なら産地学官連携プラットフォーム」に参画した。（11月16日設立総会）	A
・ 企業との共同研究を実施する	・ 一般社団法人発明推進協会から産学連携スタートアップアドバイザー（1名）の派遣を受け、令和4年度からの共同研究を推進した。 「BCGを用いた血圧など健康指標推定法の開発」（株式会社TAOS研究所、協力企業A社）	A
・ 県内自治体等の課題に対応するための受託研究を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村等からの受託研究を6件実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ① 「地域交流型連携事業運営委託業務」 委託者：御杖村（平成25年度～） 担当：村瀬准教授 ② 「自転車の歴史についての調査・分析」 委託者：公益財団法人シマノ・サイクル開発センター 担当：山部准教授 ③ 「特別展「法然と極楽浄土」出陳作品に係る展示台制作業務委託」 委託者：株式会社NHKプロモーション 担当：山田特任教授 ④ 「令和5年度 宇陀松山景観調査業務」 委託者：宇陀市 担当：井原教授 ⑤ 「令和5年度 テクノロジーを活用したコンテンツ制作等業務委託（仏像）」 委託者：奈良県伝統文化親子体験キャラバン実行委員会 担当：山田特任教授 ⑥ 「令和6年度特集展示「修理完成記念 當麻寺の仁王さん」 展示コンテンツ制作等業務委託」 委託者：なら歴史芸術文化村 担当：山田特任教授 	A

⑩ 教育研究を通じて社会的課題の共有と知的交流を深める									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・県民講座などを通じた社会的課題の共有と知的交流を推進する ・模擬講義、高大連携のワークショップなどを通じた高等学校との連携を強化する 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
セミナー、フォーラム、シンポジウム等の開催【件数】	目標						5件		6件
	実績	4件	1件	12件	21件	31件			
高大連携事業の充実【件数】	目標						8件		8件
	実績	8件	3件	6件	4件	15件			

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造研究センターの研究活動に関するシンポジウム等を開催し、地域課題の共有と知的交流をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト研究ユニットによる研究会、ワークショップ、シンポジウム、トークイベント等を28件実施した。 【主な実施例】 ・奈良伝統芸能研究ユニット「十津川村盆踊りワークショップ」を開催 ・信仰と観光研究ユニット「おだいしさんとあゆむ長谷寺お参りとたくほん体験」を開催 ・奈良県立美術館ギャラリー展『奈良に宿る「文化の記録」と「記憶の継承」』を開催 ・撤退学研究ユニット「山岳新校「みちのり」2023年度秋期プログラムを実施 ・シンポジウム「山間から「未来」を考える」他トークイベントなどを開催 ・持続可能な観光開発研究ユニット 科学研究会【基盤研究B（2020-23年度）】を開催 ・奈良地域経済研究ユニット「奈良地域経済研究ユニット研究会」を開催 ・ローカルメディア研究ユニット「第3回ローカルメディア研究会」を開催 ・住宅セーフティネット研究ユニット「奈良県居住支援サミット実行委員会」を開催 ・「第3回奈良県居住支援サミット」を開催 ・奈良地域経済研究ユニット 第3回地域経済研究フォーラムを開催 ・学内研究会を2回開催した。 前期 9月29日開催 研究紹介等4件 参加者：32名（うちオンライン16名） 後期 3月27日開催 研究紹介等6件 参加者：26名 ・1月27日に地域活動報告会を開催した。 学生による報告5件、指導教員による意見交換 参加者：45名 ・上記の通り31件のセミナー、フォーラム、シンポジウム等を開催し、中期計画目標値の6件を大幅に上回った。 	S

<p>・ 出前講義を通じ、地域や高等学校をはじめとする教育機関等と連携する</p>	<p>・ 高校生対象の出前講義を15件実施し、中期計画目標値の8件を大幅に上回った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 5月16日(火) 奈良県立高田高等学校 参加者：111名 薬師寺准教授 「観光が果たす国際貢献」 ② 5月16日(火) 奈良県立高田高等学校 参加者：111名 薬師寺准教授 「観光客の心理と異文化理解」 ③ 7月4日(火) 奈良工業高等専門学校 参加者：15名 窪田准教授 「多民族が交錯する都市—多言語化の観点から」 ④ 7月4日(火) 三重県立名張青峰高等学校 参加者：30名 岡井教授 「ジェンダーに関するCMと生きづらさ—メディアとダイバーシティ」 ⑤ 7月19日(水) 箕面自由学園高等学校 参加者：65名 薬師寺准教授 「奈良市ならまちの事例から考える現代観光の諸相」 ⑥ 9月16日(土) 雲雀丘学園高校高等学校 参加者：19名 窪田准教授 「グローバル化時代における異文化理解とは？「文化」をめぐる対立を乗り越えるために」 ⑦ 9月16日(土) 雲雀丘学園高校高等学校 参加者：31名 窪田准教授 「グローバル化時代における異文化理解とは？「文化」をめぐる対立を乗り越えるために」 ⑧ 10月26日(木) 三重県立津東高等学校 参加者：30名 岡井教授 「ジェンダーに関するCMと生きづらさ—メディアとダイバーシティ」 ⑨ 10月26日(木) 三重県立津東高等学校 参加者：30名 岡井教授 「ジェンダーに関するCMと生きづらさ—メディアとダイバーシティ」 ⑩ 10月27日(金) 奈良県立生駒高等学校 参加者：14名 齊藤准教授 「日本を取り巻く経済状況」 ⑪ 10月27日(金) 奈良県立生駒高等学校 参加者：21名 齊藤准教授 「日本を取り巻く経済状況」 ⑫ 11月7日(火) 大阪府立高津高等学校 参加者：5名 高津教授 「研究室訪問（オンライン）」 ⑬ 11月7日(火) 大阪府立高津高等学校 参加者：5名 鈴木教授 「研究室訪問（オンライン）」 ⑭ 12月15日(金) プール学院高等学校 参加者：14名 窪田准教授 「多民族が交錯する都市—多言語化の観点から—」 ⑮ 3月25日(月) 「地域活性化における「まちづくりデザイン」とは何か」 村瀬准教授 石川県立野々市明倫高等学校 参加者：43名 	<p>S</p>
---	---	----------

Ⅲ 地域連携	価値目標	・大学が有する地域創造に関する知見を最大限に活かした地域のシンクタンク機能を果たす仕組みづくりの推進
		・地域創造研究センターの活動を通じた地域社会への貢献の充実
2 地域のシンクタンクとしての機能充実		

⑰ 地域創造研究センターを通じた活動を充実する									
取組内容（令和3～8年度）									
・地域創造研究センターの体制を充実し、地域のシンクタンクとしての機能を強化する ・地域創造研究センターのシーズ及び成果を積極的に発信し、地域連携に繋がる取組を促進する									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
地域創造に関する研究の件数〔研究件数〕	目標						10件		10件
	実績	11件	11件	12件	13件	10件			
地域創造研究センターとURA機能の充実	目標	(定性的目標) URAを配置する等、地域創造研究センターの体制を充実							
	実績	検討	実施	実施	実施				
			(具体的内容) ・科研費獲得ウェビナー研修会の実施 ・研究倫理研修(e-learning研修)の実施 ・外部資金等の情報を提供し、科研申請率が上昇						
地域創造研究センターの活動・成果の教育への還元	目標	(定性的目標) 実施							
	実績	-	実施	実施	実施				
			(具体的内容) ・学生の研究発表「地域活動報告会」の開催 ・学内研究会の開催						

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・地域創造研究センターを中心に住民、学外研究者及び行政と連携し、奈良県の南部東部に関する課題検討の場を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良地域経済研究ユニット研究会（主催：奈良地域経済研究ユニット）を開催した。 第13回 4月18日 奈良県南部東部の将来を考えるプラットフォームづくりについて 参加者：6名（奈良県立大学、大阪経済大学、奈良女子大学、南都経済研究所） 第14回 6月13日 十津川村地域経済循環分析事業について 参加者：6名（奈良県立大学、大阪経済大学、奈良女子大学、南都経済研究所） 第15回 2月9日 第3回地域経済研究フォーラム 参加者：70名（奈良県立大学、大阪経済大学、奈良女子大学、南都経済研究所） ・「十津川村盆踊りワークショップ」（主催：奈良伝統芸能研究ユニット）を6回開催した。 会場：奈良県立大学 5月27日(土) 6月25日(日) 9月17日(日) 12月17日(日) 3月3日(日) 会場：県立図書館 7月8日(土) 参加者：各回15名 ・シンポジウム「山間から「未来」を考える」（撤退学研究ユニット）を開催した。 7月9日 会場：高知市立自由民権記念館 参加者：160名（会場：60名・オンライン：100名） ・山岳新校「みちのり」（撤退学研究ユニット）2023年度秋期プログラムを実施した。 	A

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<p>・地域創造研究センターにおいて、地域からの相談を受け付ける</p>	<p>・市町村等からの相談を7件受け付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①広陵町 広陵町政策推進審議会の審査委員の紹介→米岡准教授を紹介した ②三宅町総務部総務課 個人情報保護審査会の審査委員の紹介→岩垣准教授を紹介した ③奈良県よろず支援拠点 成長志向企業伴走支援の公募に関する選定委員の紹介→津田准教授を紹介した ④なら担い手・農地サポートセンター 遊休農地の有効活用を促進する映像作成の企画等の協力依頼→村瀬准教授を紹介した ⑤三宅町 保健福祉施設の改修にともなうプロポーザル審査委員会の委員紹介 →教員の日程調整がつかなかったために断った ⑥奈良県公認ツアーエキスパートの会 奈良市内の世界遺産、文化財の活用について企画・運営を行う学生ゼミの紹介 →相談時期が遅かったため、教員の授業計画がすでに固まっていたために断った ⑦デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社 →アントレプレナーシップにかかる相談を受けた 	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>・地域創造研究センターの研究シーズ及び成果を積極的に発信し、地域連携につながる取組みを促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員にresearch map（リサーチマップ）への研究業績の情報アップを定期的に呼びかけ、研究活動の「見える化」を図った。 ・大学広報誌で教員の研究紹介、研究報告等の成果を掲載した。 ・令和4年度学術研究員の研究成果をセンターHPに掲載した。 	<p style="text-align: center;">A</p>

Ⅲ 地域連携	価値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における生涯学習の拠点として、学びの意欲を持つ県民への学び直しの機会を提供 ・大学の知見、資源を活用した全世代の生涯学習機会の充実

⑬ 地域における生涯学習の拠点として、学び直しの機会を提供する									
取組内容（令和3～8年度）									
・大学のシーズと県民ニーズのマッチングを図り、出前講義等による県民への学習機会を提供する									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
奈良県立大学シニアカレッジの継続実施	目標			（定性的目標） 充実して実施					
	実績	実施	中止	中止	中止	中止			
				↓ （具体的内容） ・新型コロナウイルス感染症の状況等により中止した。					
出前講義等の充実 〔実施件数〕	目標						50件		50件
	実績	71件	5件	12件	11件	53件			

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立大学シニアカレッジの開講に向けて検討を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の開講について検討をしたが、例年、開講準備に取りかかる年当初時点において、新型コロナウイルスの収束が見通せなかったことによりその準備に着手出来ず、十分な開講期間の確保ができなかったことに加え、講師及び会場について従来どおりの確保が困難であったこと等により中止を決定した。 	—

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<p>・ 本学教員の地域貢献活動の一環として 出前講義を実施する</p>	<p>・ 地域および高校等の教育機関を含め、20件の出前講義を実施した。</p> <p>① 5月16日(火) 奈良県立高田高等学校 参加者：111名 薬師寺准教授 「観光が果たす国際貢献」</p> <p>② 5月16日(火) 奈良県立高田高等学校 参加者：111名 薬師寺准教授 「観光客の心理と異文化理解」</p> <p>③ 5月26日(金) 三宅町教育委員会教育総務課 参加者：44名 山田特任教授 「みたくなる奈良の仏像」</p> <p>④ 7月4日(火) 奈良工業高等専門学校 参加者：15名 窪田准教授 「多民族が交錯する都市ー多言語化の観点から」</p> <p>⑤ 7月4日(火) 三重県立名張青峰高等学校 参加者：30名 岡井教授 「ジェンダーに関するCMと生きづらさーメディアとダイバーシティ」</p> <p>⑥ 7月19日(水) 箕面自由学園高等学校 参加者：65名 薬師寺准教授 「奈良市ならまちの事例から考える現代観光の諸相」</p> <p>⑦ 9月5日(火) 飛鳥公民館 参加者：33名 山田特任教授 「みたくなる奈良の仏像」</p> <p>⑧ 9月16日(土) 雲雀丘学園高校高等学校 参加者：19名 窪田准教授 「グローバル化時代における異文化理解とは？「文化」をめぐる対立を乗り越えるために」</p> <p>⑨ 9月16日(土) 雲雀丘学園高校高等学校 参加者：31名 窪田准教授 「グローバル化時代における異文化理解とは？「文化」をめぐる対立を乗り越えるために」</p> <p>⑩ 10月26日(木) 三重県立津東高等学校 参加者：30名 岡井教授 「ジェンダーに関するCMと生きづらさーメディアとダイバーシティ」</p> <p>⑪ 10月26日(木) 三重県立津東高等学校 参加者：30名 岡井教授 「ジェンダーに関するCMと生きづらさーメディアとダイバーシティ」</p> <p>⑫ 10月27日(金) 奈良県立生駒高等学校 参加者：14名 斉藤准教授 「日本を取り巻く経済状況」</p> <p>⑬ 10月27日(金) 奈良県立生駒高等学校 参加者：21名 斉藤准教授 「日本を取り巻く経済状況」</p> <p>⑭ 11月7日(火) 大阪府立高津高等学校 参加者：5名 高津教授 「研究室訪問（オンライン）」</p> <p>⑮ 11月7日(火) 大阪府立高津高等学校 参加者：5名 鈴木教授 「研究室訪問（オンライン）」</p> <p>⑯ 12月8日(金) まほろば歴史同好会 参加者：26名 佐藤教授 「超高齢社会における都市の地域コミュニティとは」</p> <p>⑰ 12月15日(金) プール学院高等学校 参加者：14名 窪田准教授 「多民族が交錯する都市ー多言語化の観点からー」</p> <p>⑱ 12月16日(土) 佐保地区自治連合会 参加者：35名 岡部准教授 「地域の姿や地域経済を簡単に知ろう」</p> <p>⑲ 1月18日(木) 奈良市立若草公民館 参加者：22名 山田特任教授 「みたくなる奈良の仏像」</p> <p>⑳ 3月25日(月) 石川県立野々市明倫高等学校 参加者：43名 村瀬准教授 「地域活性化における「まちづくりデザイン」とは何か」</p>	<p>A</p>

IV 国際交流	価値目標	・多様な留学機会の提供とサポート体制の充実や、海外の大学・研究者との学術交流の促進
1 海外の大学との研究・教育交流の充実		

⑩ 学生に対する留学相談、情報提供、留学支援制度を充実する									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の国際交流や協定校との留学生の交換を推進する ・留学生の派遣と受入の支援体制の充実を図る 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
留学生受入数	目標						10人		10人
	実績	7人	0人	0人	1人	4人			
留学生派遣数	目標						30人		30人
	実績	30人	0人	0人	7人	23人			
多様な留学機会の提供とサポート体制の充実	目標	(定性的目標) 充実して実施							
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓ (具体的内容) ・7月にフィリピンのラブラプセブ国際大学とMOUを新規締結した。 ・学内留学説明会の実施し、協定校留学について説明を行った。また、留学予定の学生向けに海外安全オリエンテーションを実施した。 ・協定校への留学またはゼミ研修に参加する学生については、本学費用負担で日本アイラックの海外安全情報サービスに加入した。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・交換留学生に対して、学内及び日常生活でのサポートを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月27日(水)に交換留学生4名が奈良に到着した。(韓国・京畿大学2名、台湾・開南大学1名、中国・上海師範大学1名) ・到着後、宿舎への案内、買い物支援及び奈良市役所での住民登録と国民保険手続き支援を行い、履修登録説明や履修登録のサポートを行った。 ・毎月1回、留学生1名につき国際交流委員会の教員1名が担当となり、定期面談を実施している。 ・留学生と県大生の対面での交流会を実施した。 10月23日(月) 参加者：留学生4名、県大生23名 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・学内留学説明会を実施し、本学留学生制度及び留学準備となるオンライン語学研修を積極的に紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内留学説明会を実施し、長期交換派遣留学、夏期短期語学研修等の説明を実施した。 4月10日(月) 参加者：18名 4月13日(木) 参加者：23名 10月19日(木) 参加者：5名 10月20日(金) 参加者：9名 ・ワットコムコミュニティカレッジ担当者による学内説明会を実施した。 10月3日(火) 参加者：26名 ・カピオラニコミュニティカレッジ担当者による学内説明会を実施した。 10月23日(月) 参加者：15名 <p>【留学等実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期派遣留学(カピオラニコミュニティカレッジ：1名) ・夏期短期語学研修(ヴィクトリア大学ELC：2名、ポートランド州立大学：2名、JSAF(ACEJ)手配イギリス語学学校：1名) ・スリランカ研修(村瀬ゼミ及びラナシンハゼミ：16名) ・春期短期語学研修(ラブラプセブ国際大学：1名) 	A

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 海外協定校と本学からの留学希望学生によるオンラインでの交流会を継続実施し留学交換を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度年新規MOU締結校であるラプラセブ国際大学（フィリピン）とオンライン交流を行った。 12月4日(月) 本学参加者：3名 ラプラセブ国際大学参加者：3名 	A
<ul style="list-style-type: none"> 東アジア・サマースクール2023を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度以来4年ぶりに、国内からだけでなく海外からも受講生を迎え、東アジア・サマースクール2023を実施した。 8月17日(木)～29日(火) 参加者：43名（日本19名、韓国9名、中国12名、台湾1名、ベトナム2名） 	A
(年度計画外の取組)	<ul style="list-style-type: none"> 毎週火曜日の昼休みにEカフェを実施し、実践的に英語を使用する機会を提供した。 TOEFL ITP団体試験を学内で実施した。 6月29日(木) 受験者：10名（1年生：8名、2年生：1名、3年生：1名） 12月20日(水) 受験者：11名（1年生：10名、2年生：1名） (上記団体試験について、1年生の受験料を約半額助成した。) 第3回英語プレゼンテーション大会を実施した。 12月14日(木) 出場者：7名（1年生：6名、2年生：1名） テーマ：「奈良県立大学ノベルティグッズ企画」 	

⑩ 海外の大学・研究者との学術交流を促進する									
取組内容（令和3～8年度）									
・グローバルな教育研究を推進するため、海外との学術交流の質を高める									
実現目標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
国際セミナー、シンポジウム、研究会等の開催【回数】	目標						2回		2回
	実績	1回	1回	1回	4回	2回			

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・国際セミナーを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユーラシア研究フォーラム2023『奈良でゼロアスター教』（ユーラシア研究センター主催）」を開催した。 11月25日(土) 参加者：会場65名、リモート41名以上 ・ラナシンハゼミ主催のFW発表会において、UNWTO駐日事務所とYale-NUSシンガポール人学生との意見交換会を実施した。 12月19日(火) 参加者：15名（学内10名 シンガポール人学生3名 UNWTOスタッフ2名） 	A

V 法人運営	価値目標	・理事長と学長がリーダーシップを発揮した機動的な大学改革に取り組むとともに、県民に信頼される法人運営の推進
1 ガバナンス体制の充実		

② 理事長と学長（副理事長）の連携によるガバナンス体制を充実する

取組内容（令和3～8年度）

- ・法人運営についての自己点検・評価を実施・公表し、業務運営の改善に繋げる
- ・大学機関別認証評価を受審し、評価結果を大学改善に活用する
- ・教育研究活動に係る情報や財務情報等を積極的に公開する
- ・監事と内部監査組織の連携強化を図り、適切な監査を実施する

実現目標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
コンプライアンス体制の強化	目標			(定性的目標) 充実して実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓					
				(具体的内容) ・学長主導で一般社団法人公立大学協会のセミナー及び研修システムを積極的に活用し、研修体制を充実した。					
自己点検評価や外部評価等を踏まえた業務運営の実施	目標			(定性的目標) 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓					
				(具体的内容) ・令和4年度の業務実績について自己点検評価を行い、県の法人評価委員会から評価を受けた。					
学長裁量経費の効果的な活用	目標			(定性的目標) 充実して実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓					
				(具体的内容) ・学長裁量経費を活用して、学生、教職員のための学内環境整備として、食堂にコーヒーマシンを設置した。					
教育、研究、法人運営等に係る情報公開の推進	目標			(定性的目標) 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓					
				(具体的内容) ・ホームページに財務情報を公開した。					
監事監査及び内部監査の継続実施	目標			(定性的目標) 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
				↓					
				(具体的内容) ・監事監査及び内部監査を実施した。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・機動的な法人運営を行うため、学内理事による財務状況等の情報共有を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議を毎月開催し、機動的な法人運営を行った。 ・大学運営説明会を開催し、財務状況等の情報共有を行った。(令和6年2月14日開催 参加者47名) 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究活動に係る情報や財務情報等をホームページで適切に公開する 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務情報をホームページで公開した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・学長裁量経費を活用し、教育研究活動を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学長裁量経費を活用して、学生、教職員のための学内環境整備として、食堂にコーヒーマシンを設置し、学生間の交流や学生と教員とのコミュニケーションに活用している。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・業務を合理的及び効率的に行うために、正確性や公正性だけでなく3E（経済性・効率性・有効性）の観点も重視した監査を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「監査の基本方針」及び「年度計画書」に基づき、内部監査を実施した。 ・「入学志願者数の減少への対応」をテーマに、監事監査を実施した。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・法人監事と連携し、法人の業務改善や事業の成果向上に資する監査を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「監査の基本方針」や監査結果等について、監事から意見を受け監査を実施した。 	A

V 法人運営	価値目標	・受託研究収入などの外部資金獲得等による自主財源の確保を含めた安定的な財務状況の維持など健全な財政の確保
2 健全で安定的な法人運営		

② 安定的な財務状況を維持する								
取組内容（令和3～8年度）								
<ul style="list-style-type: none"> 各種外部資金の獲得による安定的な自主財源の確保を図る 事務の効率化等を図りながら、適切な予算配分と目的積立金の効果的な活用により、健全な財政を維持する 								
実現目標	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
経済性、効率性、有効性を踏まえた財務運営	目標		(定性的目標) 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施		
(具体的内容) ・海外との折衝など高度な専門性が求められる業務や、封入発送等の単純業務を外部委託するなど、効率的な事務執行を行った								
目的積立金の効果的な活用	目標		(定性的目標) 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施		
(具体的内容) ・1号館食堂のリニューアルを行った。								
寄付金、外部資金等の自主財源の確保【額】	目標		期間中 年平均12,000千円 (受託研究等収入、科学研究費補助金間接費収益、寄付金収入 等)					
	実績	14,899千円 (19,119千円)	30,107千円 (40,357千円)	41,193千円 (50,733千円)	51,305千円 (65,495千円)	26,574千円 (40,724千円)		

※実績の（）内は、科学研究費補助金の直接経費を含む総額

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 適切な予算配分と目的積立金の効果的な活用により、健全な財政を維持する 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会からの寄附金を活用し、目的積立金と合わせて令和5年9月に食堂リノベーションを行った。リノベーション後の食堂は、学生の交流の場となっており好評を得ている。 全教職員を対象とした大学運営説明会を令和6年2月14日に開催し、財務状況について情報共有を行った。(参加者 47人) 	A
<ul style="list-style-type: none"> 科研費、受託事業等の自主財源の確保を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 企業との共同研究 1件：1,100千円 市町村等からの受託研究 6件：2,618千円 <ul style="list-style-type: none"> ①地域交流型連携事業運営委託業務(御杖村) 813千円 ②自転車の歴史についての調査・分析(公益財団法人シマノ・サイクル開発センター) 250千円 ③特別展「法然と極楽浄土」出陳作品に係る展示台制作業務委託(株式会社NHKプロモーション) 635千円 ④宇陀松山景観調査業務(宇陀市) 145千円 ⑤テクノロジーを活用したコンテンツ制作等業務委託(仏像)(奈良県伝統文化親子体験キャラバン実行委員会) 520千円 ⑥令和6年度特集展示「修理完成記念 當麻寺の仁王さん」展示コンテンツ制作等業務委託(なら歴史芸術文化村) 254千円 科研費による研究実施 代表17件、分担12件 直接14,150千円、間接4,020千円 寄附金 12,244千円(うち70周年記念事業分として同窓会より10,000千円) 大学入試センター試験事業収入 2,889千円 その他 3,703千円 	A

V 法人運営	価値目標	・教職員が自身の能力を最大限に発揮できるような職場環境を実現するため、事務系基盤システム等各種システムの適正な運用による業務の効率化や、教職員の意識改革、資質向上による働き方改革の推進
3 働き方改革の推進		

㊸ 勤務環境の改善を進める									
取組内容（令和3～8年度）									
・人事制度の見直しを進め、適正な人事配置を行う ・外部委託や各種システムを積極的に活用し業務の効率性の向上を図る									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
計画的な事業実施 や人事制度改善の 推進	目標			（定性的目標） 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
		実施		↓ （具体的内容） ・経験を有する契約事務職員を、採用選考を経て一般事務職員として法人採用し、担任する業務内容に相応しい処遇を実施 ・各職員の適正やとりまく状況等を踏まえ、業務分担の見直しを随時実施					
システム化や外部 委託の促進による 業務の効率化	目標			（定性的目標） 実施					
	実績	実施		実施	実施	実施			
		実施		↓ （具体的内容） ・海外との折衝など高度な専門性が求められる業務や、封入発送等の単純業務を外部委託するなど、効率的な事務執行を行った。					

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・県人事交流職員、附属高校教職員及び契約事務職員の人事評価結果を給与へ反映する	・前年度下期の人事評価結果について、6月勤勉手当に反映した。 ・上期について人事評価を行い、評価結果を12月勤勉手当に反映した。 ・下期について人事評価を行い、翌年6月の勤勉手当に反映させる。	A

㊸ SD研修等により教職員の意識改革を進める									
取組内容（令和3～8年度）									
・計画的にSD研修等を実施し、教職員の意欲や能力、資質の向上を図る									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
SD研修等の実施回数 【回数】	目標						2回		2回
	実績	1回	1回	2回	2回	2回			
SD研修等の受講率 【受講率】	目標						70%		70%
	実績	51%	64%	76%	56%	70%			

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・教職協働や事務職員のスキルアップなどをテーマとしたSD研修を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・FD・SD研修を2回実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 9月27日(水) オンライン実施 <ul style="list-style-type: none"> 参加者：36名（教員23名、職員13名） 内容：「教学におけるMicrosoft Teamsの使いかた」 3月18日(月) 対面実施 <ul style="list-style-type: none"> 参加者：42名（教員16名、職員26名） 内容：「これからの大学運営について」 ・大学運営説明会を開催し2月14日(水)に開催し、財務状況について情報共有を行った。（参加者 47人）、 ・一般社団法人公立大学協会の研修システムを活用し、基礎／実務的な研修を実施した。 	A

V 法人運営	価値目標	・大学活動を積極的に発信するなど、大学の知名度及びブランドイメージの向上
4 情報発信の推進		

㊸ 戦略的な広報を展開する									
取組内容（令和3～8年度）									
<ul style="list-style-type: none"> ・教育、研究、地域連携等の取組・成果の発信を充実するとともに、創立70周年を契機とした戦略的な広報を推進する ・オープンキャンパスや高校訪問など積極的かつ効果的な広報活動により、アドミッションポリシーにかなう学生を確保する 									
実現目標		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
メディアへの発信 件数〔件数〕	目標						26件		30件
	実績	18件	11件	13件	14件	18件			
メディアにて報道 された件数〔件 数〕	目標						92件		100件
	実績	80件	83件	115件	110件	111件			

令和5年度計画	令和5年度計画の実績	自己評価
・創立70周年記念行事をPRの場として積極的に活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・創立70周年記念誌編集委員会を立ち上げ、記念誌作成に向けて打ち合わせ、原稿作成、印刷発注、校正等を行った。 ・創立70周年記念誌を発刊し、本学の歴史や教育研究の取り組みをまとめた。 ・創立70周年記念式典で、短期大学時代から現代に至るまでの映像を流し、本学のPRを行った。 	A
・令和7年度からの新カリキュラムに合わせた大学のPR動画作成準備を進める	・新カリキュラムの方向性および内容が決定していないため、制作を見送った。	B
・SNSチームを中心に、SNSのサービス機能を利用した広報を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生主体のSNS運営チームにより、大学公式Instagramでの投稿を頻繁に行った。また、LINEについても、オープンキャンパスの機会に合わせて登録者への特典配布を行い、登録者数を増加させた。 <p>【Instagram】 投稿件数（R5.7.9～R6.3.31）：136件 （※R3開設～R5.7.2までの投稿件数 59件） フォロワー数：822人（R6.4.12時点） （※R5.7.2時点では532人）</p> <p>【LINE】 友だち登録者数：398人（R5.7.1時点）⇒988人（R5.8.11時点）</p>	A
・アドミッションポリシーにかなう学生を確保するため、オープンキャンパスや高校訪問などを積極的に実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスを8月11日に実施。記録上過去最多の来場者数であり、高3来場者のうちの出願率も令和4年度より向上した。 来場者：484組857名、オンライン：8組8名 高3参加者187名のうち、出願者120名（出願率 約64.2%） （※令和4年度出願率 約52.4%） ・大学説明会を10月7日に実施した。来場者数は昨年からはほぼ倍増。 来場者：97組160名 （※令和4年度来場者 50組84名） ・高校等の訪問を実施した。 68校（内訳：高校66校。塾2校） 	A
・大学広報誌『Narapu』を通して、教育・研究・地域連携等の取組と成果を発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・『Narapu』第10号及び第11号を各5000部発刊し、保護者等へ配付した。（4月、10月） 第10号 地域連携・地域活動報告、奈良県の発展に資する研究プロジェクト中間報告等 第11号 地域連携・地域活動報告、卒業生インタビュー、学内研究会、教員紹介等 	A